

農業委員会だより

(第 39 号)

平成二十九年三月十五日
編集・発行 足立区農業委員会
足立区中央本町一十七ー一
Tel 三八八〇一五八六六(直)

農業委員会委員候補者を募集しました

平成27年に農業委員会等に関する法律の一部が改正され、農業委員の選定方法がこれまでの選挙制から、議会の同意を要件とする首長の選任制に改められました。

これまでの選挙制では、耕作している面積が10a以上の農業者等が選挙人名簿へ登録申請できるとの規定でしたが、選任制では、農業に関し、知識・経験を有していれば農地を所有・耕作していない方でも農業委員候補者として推薦又は、応募することができるようになりました。農業委員候補者の募集に先立ち、区から募集に関するお知らせがあったと思いますが、農業委員の選出方法が大きく変化した状況の中、区では2月15日から3月15日まで、農業委員を募集しました。今後は、区議会の同意などを経て、区長から選任されます。

我々、第22期農業委員会の委員としては、限りある農地を守るため、また、足立区の農業施策をさらに発展させるため、次期農業委員会は新しい制度のもと適格な方々により組織されることを願っております。

区では、農業委員会等に関する法律及び同法施行規則の規定により、農業委員候補者の推薦及び応募状況を公表します。

■農業委員候補者募集状況

※3月1日現在

- ・ 推薦を受けた者3人
(うち認定農業者0人)
- ・ 応募申込みした者0人
(うち認定農業者0人)

また、募集終了後速やかに、農業委員候補者として推薦を受けた者、またその者を推薦した者、応募申込みした者について、住所等を除く要件を区のホームページ等により公表します。

区内3小学校の児童により栽培されている千住ネギは2年目となり、昨年携わった児童から受け継いだ種を見事に育て、すべての学校で収穫することができました。



今年も、小学生が千住ネギの栽培に取り組みました!

1年間の様子は、区のホームページで「足立区 千住ネギ」と検索してください。

平成29年度足立区農業委員会 活動計画(案)を作成しました

都市農業振興基本法の施行を受け、政府が「都市農業振興基本計画」を策定しました。平成29年度は都市農業の振興に関する地方計画の策定が進められるほか、新たな都市農業・農地に関する法制度の構築に向けた具体的な検討が進められることが想定されています。

このような状況をふまえ、平成29年度の農業委員会活動は「農地等の利用の最適化を推進する活動」を進めるとともに、情報の収集、発信に積極的に取り組んでいくことを目標に、次のとおり平成29年度の活動計画(案)を作成しました。

◇農地等の利用の最適化を

推進する活動の推進◇

新たな農業委員会法により位置づけられた「農地等の利用の最適化を推進する活動」に具体的な取組目標を定め、農業委員会組織活動及び農業委員による地域活動を進める。

- 1 農地利用状況調査の効率的な実施
- 2 生産緑地制度等の周知と新規・追加指定の推進

◇情報活動の推進◇

政府の「都市農業振興基本計画」の策定を受けて、平成29年度は都市農業・農地制

度などの諸制度の情勢を収集し、より一層の農地制度の理解を図るため、農業委員会だよりの発行等により積極的に情報を発信していく。

- 1 農業委員会だよりの発行
- 2 イベント等における農業委員会の活動の周知
- 3 区内農業や都市農地の多面的機能について

◇行動する農業委員活動の推進◇

各種研修会や講習会に参加し、委員の資質向上を図り、農業委員会活動や農地利用状況の把握、日常的な相談活動など農業者の支援活動の充実を図る。

- 1 農地の肥培管理と利用促進
- 2 地域の農地状況などの情報の収集と把握
- 3 農業者への支援活動
- 4 日常活動の強化

◇認定農業者等の支援活動◇

人材の確保・育成、技術支援、情報提供等を関係機関と協力する。

- 1 農業後継者等、担い手を対象とした人材育成事業に対する支援
- 2 研修・相談、簿記・生産履歴記帳等の経営改善事業等への支援
- 3 農業経営改善計画の認定への支援、家族経営協定締結への誘導支援
- 4 施設化の推進や基盤整備事業に対する支援

◇地域農業の確立に向けた活動◇

歴史と高い技術を持つ足立の農業・農産物を内外に広くPRし、地産地消を推進するとともに、区内農業の確立を推進する。

- 1 地場農産物の普及促進事業の支援
- 2 各種イベントへの積極的な参加や直売会による農業PRや地産地消の推進
- 3 ログマーク「めいどINあだち」の活用等による区内産農産物PRの支援
- 4 江戸東京野菜「千住ネギ」の栽培支援

◇農業のある地域づくりの推進◇

農地・農業の持つ多面的機能を有効な資源として活用した地域農業を展開するため、子どもからお年寄りまでが身近に接することのできる農業について、関係機関と協力し、地域住民と協働して取り組みを進める。

- 1 農業ボランティアの育成・派遣と体験学習事業への協力
- 2 農業体験学習や職場体験に対する支援
- 3 「食と農」に関連する事業への参加と支援

◇農政活動の推進◇

都市農業の維持保全と振興施策の推進のため、東京都農業会議をはじめ、他区市町村農業委員会、国、都と連携、協働し、新たな施策展開を進める。

- 1 東京都農業会議連携活動及び事業への積極的な参加
- 2 都市農地保全推進自治体協議会への協力

～意見募集～

この活動計画(案)について、皆様からの意見を募集します。住所・氏名・電話番号・意見を明記し、持参または郵送・FAX・Eメールでお寄せください。

〈提出(宛)先〉

足立区役所農業係(南館4階)

郵送:〒120-8510

(住所は記載不要です)

F A X: 03(3880)5605

Eメール:

sangyo@city.adachi.tokyo.jp

〈提出期限〉 3月24日(金)

国有農地見回り

10月20日(木)及び11月2日(水)に、

区内41カ所の国有農地を東西に分け、各担当委員と事務局が現況の見回りを行いました。

前年度の見回りで以降、不耕作、看板や柵の未設置等、問題のあった国有農地においては一部改善も見られました。

しかし、雑草の繁茂等、改善が確認できない農地も残念ながらありました。見回りの結果は都に報告し、適正な管理と迅速な対応を求めました。



農地利用状況調査

農業委員会は、9月から10月にかけて、

農業委員会行政視察

区内の生産緑地を中心に、農地の利用状況調査を実施しました。調査の結果、ほとんどの農地が適正に管理されていたが、生産緑地の看板がない、農地用途外の工作物が設置されているなど、問題のある生産緑地もありました。今回の調査で問題ありと評価した農地については、土地所有者に適正な管理を求めました。生産緑地法では、「農地を適正に管理すること」と規定されています。宅地化農地も含めて、農業者のみならずには日頃からの適正な管理をお願いします。



農業委員会は、10月

25日(火)から26日(水)

に、石川県金沢市の金沢市農業センターとJA金沢市農産物直売所を視察しました。

金沢市と言えば、加

賀百万石、加賀料理、

加賀友禅など、「加賀」

の名称が有名です。今

回の視察の目的は、「加賀野菜がいかにし



てブランド化に成功したか」です。

視察初日、金沢市農業センターでは、金沢市の農業の概要の説明を受けました。「加賀野菜」は、古くから気候、風土に合った農産物として今に伝えられてきました。そうした歴史的背景のもと、平成2年に市、JA、生産者、市場関係者などが伝統野菜の見直しを開始し、平成9年には、「金沢市農産物ブランド協会」を発足。加賀野菜のブランド化を目指したルール作りを行い、また、積極的にイベントに参加することで認知度の向上を図ってきました。こうした関係者の努力により、全国的に「加賀野菜」は認知されるようになったそうです。

翌日は、JA金沢市農産物直売所「ほがらか村本店」を視察しました。平成8年にオープンし、現在市内に3店舗あります。視察当日は、平日にもかかわらず多くの方で賑わっていました。平成27年度の3店舗の売上合計は、1日平均約210万円、また、1日の来店者数は平均2千500人ほどということです。店頭に並ぶ地場農産物は、ほがらか村産直会の会員約800名が出品し、中には「加賀野菜」のブランドシールが貼られた野菜を見ることができました。

「加賀野菜」ブランドの成功について、多くを学ぶことができた実りのある2日間でした。

(編集…馬場博文・新井啓友)

認定農業者紹介

立春を過ぎた2月8日(水)、保木間の吉岡康弘さんのお宅を訪ねました。吉岡さんは、露地栽培で奥さんの輝江さんご両親の4人で営農されています。栽培面積は、約4千㎡、夏場は主にエダマメを、冬場はブロッコリー、カリフラワー、ホウレンソウを作付けしています。お伺いした日も、午前中に収穫したブロッコリー、カリフラワーを見せていただきました。とても立派でみずみずしく、大変おいしそうでした。収穫した野菜は築地市場へ出荷されているそうです。

吉岡さんは、大学卒業後、足立農業協同組合に入職し、9年間勤めた後、ご両親を継いで、農業の道に入る決心をされました。吉岡さんに、就農してから農業経営で一番大切にしていることは何かと伺うと、「市場へ出荷する際、途切れることなく、安定的に出荷することを目指している。」との答えをいただきました。

吉岡さんは、自身の農業経営改善計画が区に認められ、平成18年度に認定農業者となり、



吉岡康弘さん ご協力ありがとうございました。

以降、23年度、28年度と認定を受けています。

農作業の傍ら、JA東京スマイル足立地区青壮年部に籍を置き、平成21年から2年間、青壮年部長として活躍されました。地域活動においても積極的に参加し、消防団を18年間務め、部長も歴任し、現在も町会役員などを務められています。

地域農業発展の担い手として、吉岡さんが積み重ねてきた活動が認められ、平成13年度には、東京都農業会議から農業後継者顕彰「東京都知事賞」、平成26年度には、企業の農業経営者顕彰「東京都農業会議会長賞」を受賞しました。

吉岡さんは大変面白い方で、農業に対する熱い思いを感じました。今後とも足立の農業の担い手の一人として、ご活躍されることを期待しています。

(編集・馬場博文・新井啓友)

平成28年度 都市農業活性化支援事業実施報告

区内3農家で組織する足立ハウス栽培促進クラブが、都の補助事業を活用し、8棟のパイプハウス等を導入しました。今後は導入したパイプハウス等を活用し、自らが立てた5年後の経営力を強化するための計画の達成に向けて、農業経営を行っていきます。

区では、主に認定農業者に対し、この事

業を含む施設化の推進等のための支援を実施していきます。

平成30年度以降に、この事業の導入をご検討される方は、農業係までご連絡ください。平成28年度に事業を受けた農業者は次のとおりです。

『足立ハウス栽培促進クラブ』

横山 修平(入谷) ハウス3棟、井戸1基
横井 善彦(扇) ハウス3棟
宇佐美 一彦(辰沼) ハウス2棟、井戸1基



横山さん パイプハウス



横井さん パイプハウス



宇佐美さん パイプハウス

認定農業者セミナー

2月13日(月)、区および農業委員会等主催による「足立区認定農業者セミナー」が、JA東京スマイル足立支店で開催され、認定農業者など、計26名の方にご参加いただきました。

セミナーでは野菜栽培からブルーベリー観光農園へと新しい農業経営に挑戦し成功された、葛飾区柴田農園の柴田邦男さんが、「ブルーベリー摘み取り園の経営について」をテーマに講演を行いました。



講演では、観光農園開園までの経緯や、栽培や圃場管理、接客に関する苦労等についてのお話をされました。また、ブルーベリーの栽培では剪定が一番大変であり、剪定の仕方では収穫量が大きく変わるなど、経営についてのアドバイスもお話されました。当日会場では、摘み取りに來られる來園者のために考えた、収穫時に使用するオリジナルの摘取バックを披露され、参加者の目を惹きつけていました。

講演はとても好評で、参加者からは、「工夫された話をたくさん聞くことができてとても勉強になった」「私もブルーベリーを植えてみたくなった」「今後も、都市農業

における可能性を知ることができるセミナーに参加していきたい」などの声が聞かれました。

今回のセミナーに参加されなかった方で、資料をお求めの方がいらつしやいましたら、農業係までお問い合わせください。

認定農業者認定書交付式

12月20日(火)、区役所で「認定農業者認定書交付式及び家族経営協定締結調印式」が開催されました。

本年度は、平成23年度に認定された足立区認定農業者で認定期間が11月で満了となる9経営体のほか、新たに認定農業者を目指す3経営体の農業者から、平成33年度までの農業経営改善計画の認定申請があり、都

東京都農業会議、JAなどで組織する「相談支援チーム」や「認定農業者評価会」が、計画達成状況の確認や新たな計画作成についての助言を行いました。評価会委員による評価会での審議の結果、すべての計画が適切であ



決意表明をする宝谷さん



ると判断され、区長に報告し、申請のあったすべての経営体が認定されました。これにより、認定農業者数は、31経営体99名となりました。

認定書交付式では、認定農業者代表として、栗原地区の宝谷陽一さんが決意表明をしました。宝谷さんからは、直売所に來

るお客様を見て、「地域の方の声も聞きながら、新たな販路を模索し、都市農地で生き抜いていきたい。今後もより一層努力し、さらに品質の高いものを生産し、経営を向上させたい。」との力強い言葉が聞かれました。また、家族経営協定締結調印式で立会人を務めた荒堀会長は、「都市農業は、家族全員が力を合わせて継続していかなければなりません。ご家族の協力を得ながら頑張ってください。」と農業者を激励しました。

区と農業委員会では、今後も認定農業者の認定や、農業経営改善計画の目標達成への支援、家族経営協定締結を推進していきます。「認定農業者になりたい」、「認定農業者制度を知りたい」という方は、農業係までお問い合わせください。



第46回冬花品評展示会

12月13日(火)～14日(水)の2日間、区役所1階アトリウムで区主催により第46回冬花品評展示会が開催されました。

J A東京スマイル足立花卉部会の協力のもと、ポインセチアやハボタン、スイセンなど、丹精込めて栽培された選りすぐりの34点が出展されました。

天候不順が続く中で、高い技術で栽培されたきれいな花々は、審査員からの高い評価を受け、展示された花々を見た来場者の目を楽しませました。

14日に行われた展示品の販売では、販売前から80人を超える来場者が並び、開始から1時間足らずで完売しました。

品評会の上位入賞者は次の方々です。

(敬称略)

優秀賞

榎本 晴夫 (扇)

品名 ハボタン

(花苗)
つぐみ



優秀賞
ハボタン つぐみ
榎本 晴夫

優良賞

内田 和子 (興野)

品名 スイセン

ニホンズイセン

西山 照代 (江北)

品名 ポインセチア (切花)

赤

榎本 晴夫 (扇)

品名 パンジー

マトリックス

並木 一重 (一ツ家)

品名 ハボタン (花苗)

太鼓

第66回関東東海花の展覧会

2月3日(金)～5日(日)に、池袋サンシャインシティ文化会館で、第66回関東東海花の展覧会が開催されました。

この展覧会は、花に対する理解と消費の啓発を図り、花卉産業の健全な発展に寄与することを目的として、関東東海地域の1都11県と花卉関係6団体が主催する、日本で最大規模の伝統ある花の展覧会です。



当日の会場風景

展覧会に先立ち、2日(木)に、花の品評会が開催され、関東東海地域1都11県の

花の生産者が育てた自慢の切花、花苗や鉢物等が出品され、その品質と商品性を競いました。

区内2軒の花弁農家が花苗の部で、花苗9点を出品しました。扇の榎本さんが金賞1点、銀賞1点を見事受賞されました。

金賞 日本花き生産協会長賞

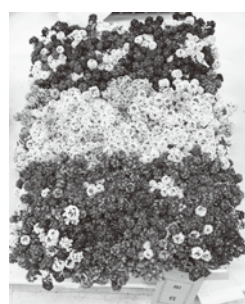
榎本 晴夫 (扇)

品名 キンセンカ アリス

銀賞

榎本 晴夫

品名 アリッサム イースターボネット



農民生産者クラブの協力で

農産物を販売しました

今年度、農業委員会は「足立区農民生産者クラブ」の協力により、2つのイベントで、区内産のコマツナやハクサイ、ダイコンなどの冬野菜や花苗を販売しました。

11月19日（土）、都

市農業公園で行われた秋の収穫祭では、悪天候の中、販売前から十数人の来場者が列をつくり、翌日曜日の販売も合わせて、846点が完売しました。



秋の収穫祭 都市農業公園にて

また、12月11日（日）、元渕江公園で行われた光の祭典では、晴天に恵まれ販売開始から列が途切れることなく、千337点が完売しました。

どちらのイベントでも、出品していただいた農産物が完売したことから、区内産農産物に対する期待を感じました。



光の祭典 元渕江公園にて

第14期農業ボランティア

認定証交付式が行われました

11月25日（金）、平成28年度農業ボランティア養成講座の閉講式が行われ、区から受講生6名の方に農業ボランティア認定証が交付されました。6月から11月にかけて区内の農家の圃場などで計13回の講座が行われ、土づくり、種まきから収穫、出荷までの一連の農作業や、農薬についての講義と散布実習などを体験しました。



講座を修了した方は、さっそく12月から区内農家でボランティアとして活躍されています。

農業ボランティアを活用したいとお考えの農業者の方は、農業係にご相談ください。

認定農業者フォローアップ事業

農業簿記勉強会

5月から、東京都農業会議の田中講師のもと、区役所で計8回、延べ33人が参加して行われた「農業簿記勉強会」が2月に終了しました。今年度は、新たに1経営体の農業者の方が勉強会に参加し、収支の計算、パソコンの入力など、夜遅くまで帳簿を整理されていました。毎回参加されている方

でも、頭を悩ませながら帳簿を整理されている方が多く、そのたびに、田中講師から分かりやすい解説をいただけるので、受講者から好評です。今年度、新たに参加した新井かついさんは、「田中講師がとても親身になって教えてくれる。来年度もぜひ参加したい」と話していました。

農業簿記勉強会は、農業経営の改善を目指す方ならどなたでも受講することができます。平成29年度に受講を希望される方は、ぜひ農業係までご連絡ください。



農産物の放射性物質検査結果

都では農産物に含まれる放射性セシウム134・137を定期的に検査しています。今年度、区内で生産された農産物について、東京都農林総合研究センターが行った検査結果は左記のとおりです。

採取日	品目	結果
平成28年9月12日	ハクサイ（露地栽培）	ND
平成29年1月17日	ナス（露地栽培）	ND

以上2回の検査結果はセシウム134・137どちらも検出されませんでした。

※NDとは、検査機関の分析による検出限界値未満を示します。

☆農業者大会☆

3月2日（木）昭島市民会館において、第58回東京都農業委員会・農業者大会が開催されました。また、記念行事として、顕彰事業等受賞者への授与式が行われました。

（敬称略）

第56回企業の農業経営者顕彰

全国農業会議会長賞
東京都農業会議会長賞

小金井 敏行

雅代（入谷）



第36回農業後継者顕彰

全国農業会議会長賞
東京都農業会議会長賞

横山 辰也

めぐみ（入谷）



平成28年度農業功労者感謝状

星野 雅夫（六木）



第43回農業委員会等功労者表彰状

農業委員の部（通算15年以上）

荒堀 安行（栗原）



玉本 努（東和）



平成28年度新規就業奨励事業

東京都農林水産振興財団では、毎年新たに農業等に就業された方に対して奨励賞を贈呈しています。今年度は、3名が受賞されました。

平成28年3月就業

宇田川 雅弘（神明）



平成27年4月就業

阿出川 浩（江北）



平成28年3月就業

新井 祥太（皿沼）



【編集後記】

委員の任期3年間の内、2年半が過ぎました。農業委員になった当初は、期待と不安がありました。先輩の委員方と一緒に活動していくことで、不安は消えていきました。また、あらためて農家として、野菜作りと真剣に向き合う機会となり、一連の作業の中で、どこか一つでも手を抜くといひしい野菜は出来ないこと、毎年、失敗と成功を積み重ねる中にしか成長は無いことを再確認することができました。

大先輩方の圃場の取材、行政視察、都市農業公園、光の祭典での直売に参加する中で、生産者、消費者それぞれの生の声を聞くことができました。農業委員として、農家として、今後に向けてとても貴重な体験の数々でした。

足立の農業を守り、発展させていくために、農業委員の職務はとても大事です。残り半年となりましたが、精一杯努めていきたいと思います。

（広報委員…馬場博文・新井啓友）

●「意見・感想をお寄せください」●

農業委員会だよりの感想や今後取り上げてほしい記事などがありましたら、農業委員会事務局（農業係）までお寄せください。

Tel (3880) 5866（直通）